

時報部

FAX 03(3595)6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

甲第 49号証

甲第A5号証

原発の重要施設の下に活断層があるのでは、と議論が続いていた関西電力大飯原発(福井県おおい町)。今日、原子力規制委員会の調査団が「活断層ではない」という見解で「一致」した。ただ、この情報は正確に伝わっていないようだ。調査団の渡辺満久・東洋大教授は「原発直下に活断層がないと結論したわけではない。今後、より詳しく調べる必要がある」と警告する。(出田阿生)

# 活断層ではないと一致 …でも

# 活断層がないわけじゃない

# 断層の位置「徹底調査必要」 関電が一転



## 大飯原発調査団 渡辺教授が警告

電のいいかげんな断層調査と、たまたま活断層でなく、それを通してしまはなかった。これが今回たまたま十分な審査が根本のあらましという。問題だ」と反論する。もう少し詳しくはこうだ。昨秋の調査団の現地

経緯を簡単に説明する。調査では、原発北側のど。まず関電は自ら想「海岸の試掘溝(図A)定した断層が「存在しな断層を調べるために掘っい」と突然言い出した。た(八)で地層のずれがその代わりに「別の場所見つかった。「単なる地に断層がある」と強弁。滑り」という意見があるその場所を調査団が調べ一方、渡辺教授は「活断

層の可能性がある」とも関電は新たな断層の場所を特定した上で「活断層ではない」と主張。申請時に想定した大きな断層(F-6断層)とつな主張する場所にある活断層が動くと同時に、断層が傾斜したといっ

た。もしこの断層が、設置層ではないと主張。申請時に想定した大きな断層(F-6断層)とつな主張する場所にある活断層が動くと同時に、断層が傾斜したといっ

ながっていれば、F-6「山頂の試掘溝」同「断層が活断層である可能や「南側の試掘溝」同「断層が動いた時、原発の敷地層は原発の重要施設(今「この二カ所の断層に活層は取水路」の直下を通動性はない」ということ

っている。活断層なら安で合意した。だが、海の活断層が動全審査を通らない。「す渡辺教授は「重大な意ると突然、関電は「断層味を持つ断層の位置が、の位置は間違っていた」こんなにもコロコロ変わる

と言いつつ、あまりのとは「と憤る。問題は、これら敷地

いいかげんさに、ぼうせ「問題は、これら敷地内の小さな断層にとどま

大飯原発活断層調査の問題点を指摘する渡辺満久・東洋大教授(東京都文京区で)

渡辺教授は「約三カ月の定期検査中に新たな試掘溝を掘ることもできる。安全審査の中で徹底的に調べる必要がある」と訴えている。



大飯原発活断層調査の問題点を指摘する渡辺満久・東洋大教授(東京都文京区で)

二ニュースの追跡